

(2) 算定対象疾患と算定期間

平成 18 年 4 月以降に調査対象医療機関でのリハビリテーションを開始した患者における算定対象疾患は、「脳梗塞」(145 件)が最も多く、次いで「外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群その他のリハを要する状態の患者であって、一定程度以上の基本動作能力、応用動作能力、言語聴覚能力の低下及び日常生活能力の低下を来している患者」(84 件)となっている。10 件以上のケースのある算定対象疾患について、算定日数の上限をもって終了した患者の割合をみると、「パーキンソン病」(30.0%)が最も多く、次いで「脳出血」(24.3%)となっている。

図表 6.5-4 算定対象疾患と算定期間

